

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 22 年度

事業所番号	2775502442		
法人名	社会福祉法人 高安福祉会		
事業所名	グループホームしぎのさと		
所在地	大阪府八尾市服部川5-7-1		
自己評価作成日	平成 23年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775502442&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 3月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である特別養護老人ホーム信貴の里の別棟になっており、ホームの庭園には石灯籠や大きな樹木がある日本庭園の一隅もあります。行事や催し物は法人全体の行事として、特養の入所者様、デイサービスの利用者様等と一緒に、踊りのボランティアや保育園児と交流をしています。法人内で、毎月勉強会(認知症について、感染症について等)を開催し、スタッフのスキルアップの機会を作っています。利用者様に家庭的な環境の中で日々過ごしていただくために、毎日スーパーに買物に行き食材を選んでいただき食事のお手伝いをさせていただいています。体調がすぐれない時は、併設している診療所の看護師に相談や、必要時は主治医が夜間を含め往診いただいています。看取りについても、ご家族様、主治医、ナース、スタッフで話し合い、グループホームで看取らせていただいた利用者様もいま

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームが母体のグループホームであり、地域包括支援センターやデイサービスと連携を図りながらも、地域密着型サービスを意識したグループホーム独自の理念を掲げ、職員間で共有しています。造園業が多い地域の特性に馴染むように、玄関は庭園になっています。またホーム内の中庭は、地域の植木職人がボランティアで手入れに来ています。生駒山系を望むりビングからの景観は利用者が四季を感じて生活ができる環境になっており、自然に恵まれたホームの環境は家族にも明るく見晴らしが良いと喜ばれています。職員は利用者の体調や生活リズムを大切に、プログラムは決めず、利用者一人ひとりの日々の生活を変えない関わりを意識して接しています。毎日のように家族や利用者に馴染みのある方や地域の方が訪ねてきています。地域で開業する主治医を中心に、他科の医療機関とも地域医療連携を図っています。重度化や終末期に向けた方針も共有できており、家族の希望があれば対応できるようチーム体制を整えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入所者様の人間性を尊重し、自立自尊心や夢を損なわないよう配慮し、明るく、楽しく、住み慣れた地域で充実した健康管理や生活介護サービスを提供しています」を掲げ、地域との交流を持ち地域の拠点になりたいと考えています。信貴の里スローガンを事務所内の目立つところに掲示しています。毎朝ミーティングで唱和し常に意識できる環境作りをしています。	職員は地域密着型サービスの意義をふまえた理念を共有、同時にホーム独自のスローガンも毎朝唱和しています。職員全体に地域密着型サービスの研修を行い、法人の職員にも地域密着型であることを意識してもらうような働きかけをしています。利用者が住みなれた地域で、笑顔で暮らせるために職員は地域との交流に家族も取り込み、地域での広がり理解を得られるような方向を検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日地域のスーパーに出かけています。お米は、地域のお米屋さんへ配達していただいています。地域の人々から野菜をいただいたり、植木屋から花をいただいたり、田畑など緑の多い地域に散歩に出かけたり、中学生の職業体験受け入れ等により交流を深めています。今後も地元の人々との交流を深めるために、グループホームに来て頂くだけでなく、入所者が地域に出かけることを継続します。	地域在住の職員が子ども会との交流の機会を作っています。地域包括支援センターで行う「笑う会」へ参加し、地域の人と交流、会の参加者がホームを訪ねて更に交流を深めています。ハローワークより職業体験の受け入れを実施しています。家族の希望により、地域包括支援センターを通してホームの情報発信もしています。毎日の食材は、利用者と共に地域のスーパーへ買い物に出かけています。中庭の手入れには地域の造園業がボランティアとして来訪し、利用者も一緒に水やりなどを行っています。今後は職員と家族と一緒にできる外出の機会を増やし、利用者が地域との交流を深めていけるように支援していく方向です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	入居希望家族への介護相談及び施設の見学、パンフレットの配布など随時対応しています。運営推進会議などで議題をあげ話をしています。 今後も介護相談及び施設の見学や運営推進会議等で取り組んでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況、行事の報告、外部評価の報告、ご家族様のアンケートの報告、利用者様の生活ぶり、職員の研修報告を行っています。委員の皆様から様々な意見を聞き、サービスに取り入れサービスの向上につなげていくよう取り組んでいきます。改善点については早急に対応し、良い点についてはより良く継続できる様サービスの質の向上につなげています。	運営推進会議のメンバーには民生委員、高齢者クラブ代表、家族と利用者も参画し、2ヵ月に1回開催しています。会議では委員からの意見が出やすくするために事前にレジメを配布し議題を伝えています。ホームからの情報提供だけではなく委員からは地域の情報を提供してもらい、高齢者クラブ主催のポスターをホームに貼り、展覧会には利用者も参加しています。外部評価についても議題にし、評価結果を受けて取り組んだ内容等も報告しています。取り組んだ一例としてホーム便りの発行は、家族に好評です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	八尾市介護保険課に2ヶ月に一度、運営推進会議についての報告をしています。その他は随時連絡し相談にのっていただいたり、助言を頂いています。	市の担当者とは普段から連携を図っており、担当者が変わった場合はホームに訪されることもあり、随時相談にもなっています。運営推進会議の報告を行う際に、市から情報を得る等、お互いの情報交換もできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていません。回廊式になっているベランダへ出るドアも施錠していません。入所者様は朝食後にベランダに出て散歩をしたり、朝の新鮮な空気を肌で感じていただいています。禁止の対象になる具体的な行為は行っていません。勉強会を通じ入所者様中心のケアに取り組んでいます。	法人全体の方針で身体拘束のないケアに取り組み、職員研修や勉強会も行っています。玄関やエレベーターの施錠は行わず、利用者は自由に散歩に出かけられます。利用者の生活パターンを把握し、新しい利用者が入居された場合は、職員が立ち位置を考え、お互いに死角を作らないようなケアを実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護指導者ネットワーク全国研修に参加や法人内で毎月行っている勉強会、外部から講師を招き学ぶ機会を設け重要性を認識しています。また日々お体に変化がないか確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、計画作成担当者は研修会に参加しています。成年後見人制度を利用している方もおり、今後も相談があれば、制度の説明を行い、必要な方には活用していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、退所時には疑問点や不安な点を十分に話し合い理解、納得を得ています。これからの暮らしについて、よりよい方法を提案する等、納得が行くまで一緒に考えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入所者様やご家族から要望・意見を聞きとるよう声を掛けています。ご家族様にアンケートを行い、意見や要望を伺う機会を設けています。人目に付きにくい1階エレベーター前に、意見箱を設置し、スタッフの目を気にすることなく、自由に投函できるようにしています。来園時や電話による近況の報告以外に季刊のしぎのさとだよりで、写真を交え入所者様の体調や生活状況を書いた手紙を送付し、コミュニケーションを深め意見の反映しやすい環境を整えています。要望があればフロア一会議で検討し運営に反映させています。	ホーム独自で、家族アンケート調査を年1回実施していますが、苦情等はないため、別に意見や要望を伺う機会を設けています。意見箱は駐車場のある1階のエレベーター前に設置して意見を投函しやすい配慮をしています。面会時には家族との会話を心がけ、「認知症」という病気について家族へ説明し、理解を得る支援も行っています。職員の退職や交代は利用者に配慮をした上で職員個人が伝えるようにし、退職した職員については、退職後に季刊誌『しぎのさとだより』に載せています。家族からの要望はすぐに計画に反映させています。昨年の外部評価受審以降、敬老会に家族の参加を呼びかけて60名以上の参加があり、家族同士の交流も図っています。また、正月に家族と一緒におせち料理を食べる会の開催にも繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に1度職員にアンケートを行っています。グループホーム会議などで職員の意見に耳を傾け検討しています。職員が自由な意見が出せるような雰囲気作りを心掛けています。</p>	<p>月1回のフロア会議は、ケアの確認と共有のための会議と認識し、職員が気づきや意見が出せる雰囲気になっています。日々利用者と一緒にいる職員がその都度意見を表出することができ、利用者にあった計画案に変更できるようになっています。年1回、職員を対象としたアンケート調査を実施しており、職員の異動についても、希望が出せるようになっています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人内の勉強会や研修等によりスキルアップに努めています。職員から研修参加の希望があった時は、勤務調整を行い参加し向上心を持って働けるように努めています。法人内勉強会に年1、2回、外部研修は年に2回程度参加できるようにしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>母体施設で毎月勉強会が開催され参加しています。月に4回同じ内容の研修があり、全職員が参加できるようにしています。「緊急対応について」「感染症について」「オムツの使用について」「認知症について」等や、外部から講師を招き「利用者本位のサービスとは」「高齢者の嚙下について」の勉強会を行い、学ぶ機会を作っています。外部研修に参加した場合は、研修資料を回覧し全職員に伝達しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の連絡協議会・大阪府認知症高齢者グループホーム協議会に参加しています。管理者は市の「事業者連絡協議会グループホーム分科会」の会長を務めており、勉強会や情報交換の場を作りサービスの質の向上に努めています。また介護職員は大阪府認知症介護実践研修の指導者であり、認知症介護実践研修、認知症介護実践リーダー研修、外部評価調査員研修の実習生を受け入れており、同業者との交流を通じ、サービス向上の取り組みをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様との話し合いの中で、不安や要望を伺い入所者様の自尊心を傷付けないよう、後日改めてご来園や電話等を利用し、不安を受け止めるよう努めています。ご家族様からの不安や要望を面接記録に記載し、全ての職員が把握するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との話し合いの中で、不安や要望を伺い入所者様の自尊心を傷付けないよう、後日改めてご来園や電話等を利用し、不安を受け止めるよう努めています。ご家族様からの不安や要望を面接記録に記載し、全ての職員が把握するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療的なニーズについては、主治医・看護師と相談し提案しています。家族様から希望があった時には、必要なサービスの説明を行い、家族様の意向を伺いながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、普段から入所者に教えてもらう場面もあります。またそういう場面が多くもてるよう工夫や声掛けを行っています。入所者様にもそれぞれに役割をもっていただき、お手伝いしたり、入所者様に手伝っていただいたりすることで共に暮らしを支える関係を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話等で、入所者の近況報告や対応について一緒に考え、入所者様のニーズが実現できるよう努めています。ご家族様の精神面のケアを職員は視野に入れ接しています。ご家族様の考えに共感し、話し合い一緒に支え合う関係を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの店に買い物に行く、ご家族様の了承を得て入所者様のご自宅に外出し、ご近所の方と過ごし交流しています。利用者様が大切に、大事に思う馴染みの場所に行き、関係が途切れないようにしています。</p>	<p>日々の会話の中から利用者の思いを聴き取り、生まれた場所へ外出し、馴染みの場所やお店を訪ねる支援や、以前に住んでいた家へ出かけて、町内の馴染みの人と交流を図る支援を行っています。馴染みの美容室に行く利用者もいます。昔の友人が訪ねてきた場合は、家族にも連絡し、情報を共有しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入所者様の人間関係を把握し、職員が入所者様の輪に入り、安心して暮らせるよう配慮しています。入所者様同士が協力し合える雰囲気作りを心掛けていきます。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時に、困った事があればいつでも相談して下さいと、お伝えしています。退所後もソーシャルワーカーやケアマネジャーと連携をとったり、ご家族様から相談をいただくこともあります。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めています。困難な方にはご家族様から情報を得るようにし本人本位に検討するようにしています。日々の暮らし中心のケアカンファレンスを月に1回、医療面中心のケアカンファレンスを月に1回行い、利用者様本位に検討しています。	利用者が、日々の暮らしの中でその人らしく笑顔で暮らせるような声かけを行っています。職員間での情報の共有について、3か月に1回のモニタリングで、職員全体で項目に分けた評価をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前の面接時に、ご本人様・ご家族様から伺い、その後も日々の暮らしの中で、発見に努めています。生活歴や馴染みの暮らしは面接記録やケアプランに記載し、職員が情報を共有できるようにしています。面接記録やケアプランを職員が把握し、馴染みの暮らしができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日に出勤している職員は、全入所者様と関わりをもち、一日を通して入所者様の心身状態の変化がないかを観察し、何か変化があった場合は記録に残し、情報の共有を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>大阪府認知症高齢者グループホーム協議会書式のサービス計画書を利用しています。月に1度サービス担当者会議を開き、家族様の意見も取り入れて、介護職員と計画作成担当者が共に介護計画を作成し、全職員に周知しています。入所者様やご家族様には面談の上、介護計画を説明し同意のサインをいただいています。</p>	<p>カンファレンスを月1回開催し、職員全員でモニタリングを行っています。中・長期的な計画目標を設定し、3か月に1回は計画の見直しを行っています。職員が日々のケアの中で気づいたことを聴き、その都度介護計画に取り入れる支援を行っています。計画作成担当者は、職員から日々の変化を伝達してもらい、利用者の思いを介護計画に反映させています。入居時は帰宅願望が多かった利用者から職員が出生地の話を聞きとり、訪ねるような支援も行っています。家族の意見を取り入れた支援として、家族が糖尿病疾患の利用者におやつを持ってくることを生きがいにしているため、職員は家族の思いや意見を汲み取り、食事量やおやつを調整している事例もあります。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入所者様の変化や状態などケース記録に記載しています。入所者様の変化の把握に努め介護計画に活かしています。入所者様の気づきや変化などを記録し、計画に活かしていきます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入所者様の視点に立ち、ご家族様から要望をうかがったり、職員から、ご家族様に提案しニーズに対応しています。今後もニーズがあれば、柔軟に対応します。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議のメンバーの民生委員に入って頂き、助言を頂いています。ボランティアの受け入れは法人内で受け入れており、催し物等して頂き、入所者に喜んで頂いています。地域との関わりや良い協力体制が取り組めるようにしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に入所者様やご家族様と話し合い、入居以前からのかかりつけ医に受診するか、併設診療所の医師に受診するか話し合い、希望する医療機関を把握しています。併設診療所から週2回往診があり、常に入所者様の状況を把握しています。点滴等が必要な場合は毎日往診してもらうなどの対応が可能です。専門外の診療科目について受診が必要な時には職員が通院介助を行うことも可能です。適切な医療を受けられるよう支援します。	協力医療機関とは24時間体制で対応してもらうことができ、指示連絡ノートを活用して日々の連絡・確認は詳細にしています。地域医療連携も図れており、他科の受診時には紹介状を準備してもらい、緊急搬送時も受け入れ先に直接交渉をしてもらっています。近隣の病院への検査依頼など、利用者が適切な医療を受けられるよう体制も整備しています。馴染みの医師への受診は家族が行っていますが、その際は日頃の利用者の様子など手紙にして渡しています。歯科、眼科、精神科、リハビリ科などの往診や、併設特養の看護師も訪問で利用者の健康チェックを行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が中心に行っているケアカンファレンスとは別に看護師が中心となり、月に1度カンファレンスを行っています。併設内の診療所の看護師と毎日朝礼時に状況を報告し、適切な受診や看護を受けられる体制を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の受け入れ先病院の希望は契約時にうかがっています。入院が必要な時は、主治医が受け入れ先の病院に連絡し、手続きしていただいています。入院中はスタッフがお見舞いに行きます。退院時は病院のソーシャルワーカーと随時連絡し連携し関係づくりを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者様の状態が重度化した場合は、ご家族様・主治医、併設施設の看護師とともに話し合い、希望があれば「看取りの同意書」を交わし、ホームにて終末期の対応を行っています。看取りをさせていただいた方もいます。入所者様やご家人様の意向により、特養の入所申し込みの手続きを行う場合もあります。希望に沿い支援するようにしています。	早期から主治医が同席して家族と話し合い、家族の希望によりホームで看取りを行う方針もあります。居室に酸素機器を持ち込む利用者があり、家族の希望で、夜間も家族から直接主治医に連絡が取れるような体制を整えています。特養の看護師と連携したチームで、24時間の対応が可能となっています。職員は、利用者がベランダから季節の移ろいを感じ、普段と同じケアを受けながら、看取りを行った実績もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より緊急時の対応について勉強会が開催され参加しています。また外部の応急手当や対応の勉強会にも参加し、実践力を身につけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回避難訓練を実施しています。災害対策マニュアルを把握し避難経路を確認しています。非常・災害時のための食料品と水の備蓄もしています。	年2回の避難訓練は消防署の協力で実施しています。災害時のマニュアルを作成し、食料や水も備蓄しています。災害時における地域の協力体制として、市役所の一斉放送はありますが、運営推進会議内でも連携について、話し合っています。またホームが地域の避難所になることも伝えており、夏祭り等を通して地域との付き合いも根づき始めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様を尊重しプライバシーを損ねない対応を心がけています。個人情報取り扱いについては、勉強会などで職員の意識向上を図っています。入所者様の個人情報に関する書類については、鍵付きの棚に保管しています。	その日の体調や、生活リズムに合わせてゆったりとした環境で生活ができるよう、利用者一人ひとりを尊重した対応を行っています。プライバシーを損ねない声かけや、安全に配慮して職員の死角をなくすよう、職員間で意識し、確保しています。トイレにはシャワーが取り付けられてあり、排泄の失敗に対する配慮もされています。個人情報の取り扱いについては採用時に契約を交わし、研修会や勉強会でも確認し、全職員の意識向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入所者様にいくつかの選択肢を提案しその中から入所者様に決定していただくように心がけています。入所者様により分かりやすい説明ができるよう心がけます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物、散歩、入浴、食事時間など一人ひとりのペースや希望に応じて話し合い、その人に合わせた日々を過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は本人の行きなれた店にいただけるようご家族様の協力を得ています。月1回移動美容が来るので希望に応じてカット、毛染め、パーマを行っています。毎朝化粧をされる方、美容院を経営している娘さんの店に毛染めに行く方、その方に応じた対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等を入所者様と共に行い、職員と入所者様が同じテーブルを囲んで食事を楽しめる雰囲気作りを大切にしています。朝食時お粥が嫌いな方にご飯を提供したり、パンを提供したりその日の体調や嗜好を把握し食事が楽しみなものになるようにしています。利用者様が育てた野菜が食卓に登ることもあり、食事を楽しむことができるようにしています。	食事は毎日の食材の買物から下ごしらえ、調理、盛り付け、後片付けなど職員と利用者が一緒に行っています。利用者と職員は共に食卓を囲み、食事をしています。メニューも利用者の希望を聞き、季節のものを取り入れて、筍の皮むきは前日から準備しています。ホームの畑の野菜を取り入れることもあります。時には変わった食事としてインスタントラーメンや、ハンバーグなどは洋食屋の雰囲気を出して利用者に喜ばれています。漬物が得意な利用者がベランダの隅で、季節の野菜や料理であまった野菜をつけていて食卓に提供し、職員、利用者から美味しいと喜ばれています。以前通っていた馴染みの店に行って、おやつなどを買ってくることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者様一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量については記録し、1日の摂取量を把握しています。栄養バランスを考え利用者様と一緒に食事をとりながら、食べたい物などのリクエストを聞いています。1ヶ月毎に献立表を作成し、母体施設の管理栄養士がチェックしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の能力に応じた口腔ケアを行っています。夕食後義歯はポリデントを使用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し排泄パターンを把握し、トイレの案内時間を見直す等行い、オムツの使用・排泄の失敗を減らすようにしています。入所者様一人ひとりの排泄リズムを掴みリハビリパンツから布パンツに切り替えることができました方もいます。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりのパターンを把握し分析して、前誘導などを行っています。以前はオムツをしていた方が、日中はトイレ誘導、夜間もリハビリパンツから布パンツとパッドなど、自立に切り替えができた実績もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の運動や水分補給、食物繊維を多く取るように心掛け、どうしても排便がない方には主治医に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後から入浴の準備を行い、希望者は入浴しています。大きな浴槽にゆっくり入浴する方、ひとりで家庭浴槽に入ることを好む入所者様もいます。原則として週3回は入浴していただくようにしています。	毎日入浴をする利用者はいませんが、夜間希望する利用者にはシャワー等に対応しています。個室浴室と檜風呂浴室があり選択できるようになっています。全く入浴をしなかった利用者に、他の利用者の入浴介助を依頼し、自身の服が濡れたのをきっかけに入浴を促がして、週3回入浴できるようになった事例があります。足湯から始まって入浴ができるようになった利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	馴染みのある布団を持参いただき、 布団又はベットを選んでいただい ています。日中はレクリエーション や家事のお手伝い等で活動的な日 々を送り、安眠につなげるように しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を薬と一緒に保管して おり、目的等を把握しています。 症状の変化は毎日確認し、必要 に応じて主治医に相談していま す。全職員が周知でき、新しい 職員が入れば指導を行い、薬の 大切さを理解するようにしてい ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	家庭の延長としてホームの生活 を継続していただくために、日 常の家事を行っています。洗濯 たたみやベランダのプランター の菜園の水やり、食事の手伝 いや買物など役割を持ち、入 所者様の負担にならない様留 意しながらできることをお手 伝いいただいています。散歩や、 日々の体操、得意な裁縫など 趣味を活かした役割もってい ただいています。音楽療法や保 育園児のボランティアの交流も 楽しみにされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生会は、入所者様の行きたいところをうかがい、焼き肉屋、お墓参り、お寺の参拝などにいきます。その他季節を感じる初詣、手作り弁当を持参し花見に外出、紅葉、大阪城の梅林、花の文化園、神戸花鳥園等利用者様の声を伺い外出しています。	玄関は開錠し、本人の希望があれば毎日外出は可能となっています。利用者の体調によりますが、近隣への日々の散歩は積極的に出かけています。誕生会には本人の希望する場所に出かけられるような支援もしています。散歩に出ない利用者にはホームのベランダを一周して外気浴や季節を肌で感じ、雪の日には景観を見るだけではなく実際に雪をホームに持ち込んで直接触れて体感できるような支援を行っています。	職員や利用者は地域の在住の人もいるため、家族や地域のボランティアと協力して外出の機会を増やし、地域との交流が広がるような支援も期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭の管理ができる方にはご本人が管理されています。ご自分で管理が難しい方は、事務所で預かりしています。金銭の入出金時には、金銭出納帳に記載しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の希望があれば電話をかけたリ、手紙や年賀状を書いていただけます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に、段高くした和室には、掘りごたつもあり、ゆっくり寛ぐことができます。居室前の廊下の途中に出窓式のベンチが作られており、人目を避けてゆっくりできるスペースになっています。廊下の壁面には入所者様の生活の様子分かる写真や利用者の作品を掲示し、居心地よく過ごせるよう工夫をしています。	玄関には利用者と一緒に手作りしたホームのロゴマークや、家族が撮った風景写真、利用者の笑顔の写真が掲示され、温かさを感じられる雰囲気になっています。職員や家族の寄付による雑誌や新聞があり、自由に居室に持ち込めるようになっています。リビングの一角の和室には掘りごたつや火鉢が設けられ、落ち着ける場所になっています。廊下にあるベンチからは窓越しに生駒山系の季節が眺められ、利用者の歓談の場となっています。ベランダからは電車を眺めてのんびり一日を過ごす利用者もいて、ゆっくりと落ち着いて過ごせる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にソファや和室、廊下にはイスがあり思い思いに過ごせる場所があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みやご家族様の協力の下で長年使い慣れたベット、布団、書道の道具、家族の写真などを持ち込んで頂き、安心して過ごせるよう工夫しています。個人の居室として、自由に使用して頂ける配慮を行います。	居室は利用者が好みのものを持ち込めるようになっており、利用者はそれぞれ位牌やテレビを持ち込んだり、花や得意の習字を壁に貼ったりしています。ベッドも利用者の希望を取り入れた備え付けができるようにしてあり、酸素が必要な利用者には家族の希望により酸素機器を設置し、それぞれが居心地よく過ごせる工夫をしています。毎日晩酌をする生活を居室で楽しんでいる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口にトイレのマークや案内を掲示し一人、一人の身体機能を活かせるよう工夫しています。		